

日米海事協議について

第3回日米海事協議について（結果概要）

<平成28年8月16日 於:米国運輸省海事局 ワシントンD.C.>

協議概要

- 日米間及び国際的な海事分野に関する議題について海事当局間の意見交換を行い、相手国の海事行政についての相互理解を促進するとともに、国際海事機関(IMO)等の場における日米の連携の強化を図る。
- 平成26年8月に第1回(於:ワシントンD.C.)を開催以降、年に一度開催。
- 米国側：運輸省海事局(MARAD) ポール・ジェニヘン 長官
連邦海事委員会(FMC) ダニエル・マフェイ 副委員長 ほか
日本側：国土交通省海事局長 ほか

今次協議結果

海事分野における安全や環境問題への対応に向けた日米両国間での連携・協力策や日米海事当局間の交流強化策等幅広い議論を行い、海事分野における諸課題への対応に向け、日米両国が共同歩調をとることで一致。

環境

- シップリサイクル条約の早期発効に向けて協力していくことを確認。
- EUシップリサイクル規則に関する国際法上の問題点等の懸念を共有。
- 温室効果ガス対策について、IMOにおいて日米が継続して協力していくことを確認。
- 米国が実施するバラスト水の管理に関する地域規制に関し、柔軟な対応を要請。

安全

- IMOで策定された海事サイバーセキュリティ暫定ガイドラインについて、日米間で協調して対応するとともに情報交換を行っていくことを確認。
- 米側に対して、IMOにおいて我が国が取り組んでいる係船作業の安全対策や船上クレーンの安全対策の重要性について理解を求める。

造船・海運

- 中国・韓国で実施している造船に対する公的支援が生産性の劣る企業の市場退出を妨げ、造船市場における供給能過剰問題の是正を遅らせ、世界の造船市場を歪曲する原因となりうることに對する懸念を共有。
- 拡張パナマ運河開通後の海運分野の動向について意見交換。

その他、日米海事当局間の人材交流について環境が整ったこと、及び、今後具体的に進めていくことを確認。

日米海事協議の継続的開催及び次回協議の来年開催(於:日本)する旨合意。